

課題名：外国人市民の医療環境等の整備に向けた取り組みについて

研究代表者：盛岡短期大学部 石橋敬太郎

課題提案者：奥州市、奥州市国際交流協会

研究メンバー：吉原秋・熊本早苗（盛岡短期大学部）、細越久美子（社会福祉学部）、アンガホッフア司寿子・木地谷祐子（看護学部）、菊地徳行・高橋佐緒里（奥州市協働まちづくり部地域づくり推進課）、渡部千春・曾穎（奥州市国際交流協会）

技術キーワード：多文化共生、外国人向け医療環境整備、医療通訳

▼研究の概要（背景・目標）

奥州市では、平成31年度から医療通訳者派遣制度を奥州市国際交流協会に委託実施している。しかし、当市の医療通訳者派遣制度が十分に理解されていないこと、ケースにより求められるニーズが多様化していることから、様々な課題が顕在化している。そこで本研究では、医療通訳ボランティアを対象とした面接調査（調査1）により詳細な課題や要望を明らかにするとともに、外国人住民を対象とした質問紙調査（調査2）により外国人住民の医療受診の現状把握とニーズ把握を試みた。

▼調査1（通訳ボランティア対象）

【研究の方法】

奥州市医療通訳ボランティア2名を対象に、Zoomにより遠隔で面接調査を実施した。

【研究の成果】

●患者との関わり方や距離感

・患者との信頼関係の構築は大事だが、プライバシーの観点から適度な距離の保持を意識。

●医療従事者との関わり方

・医療従事者の説明が明確でない場合、確認や補足説明も必要となり、難しい。

●奥州市医療通訳者派遣制度への要望

・外国語で対応可能な医療従事者が勉強会に参画するなど、通訳ボランティアと協働できるといい。

▼調査2（外国人住民対象）

【研究の方法】

奥州市在住の外国籍者（18歳以上）587名を対象として医療通訳に関するアンケート調査を実施した。有効回答数は146部（25.2%）だった。

【研究の成果】

●日本語能力が低い者の半数以上が「医師の話が理解できない」といったコミュニケーションに関する不安を抱えていた。

●日本語能力の低い「あいさつ・カタコトの会話」でも31.1%、「ほとんどできない」でも16.7%の人が付き添いなしで受診していた。

●奥州市医療通訳者派遣制度に対する外国人住民の本制度の認知度は22.3%と低かったが、本制度利用者の満足度は高かった。

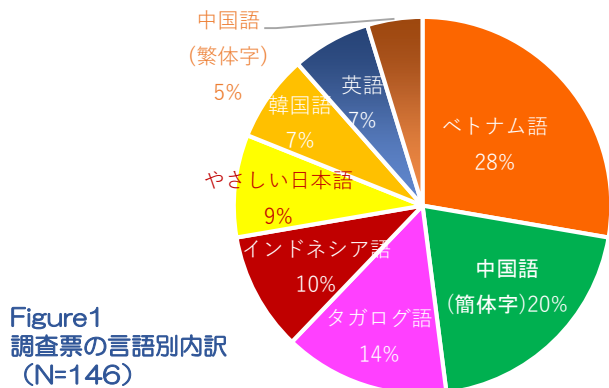


Figure 1 調査票の言語別内訳 (N=146)

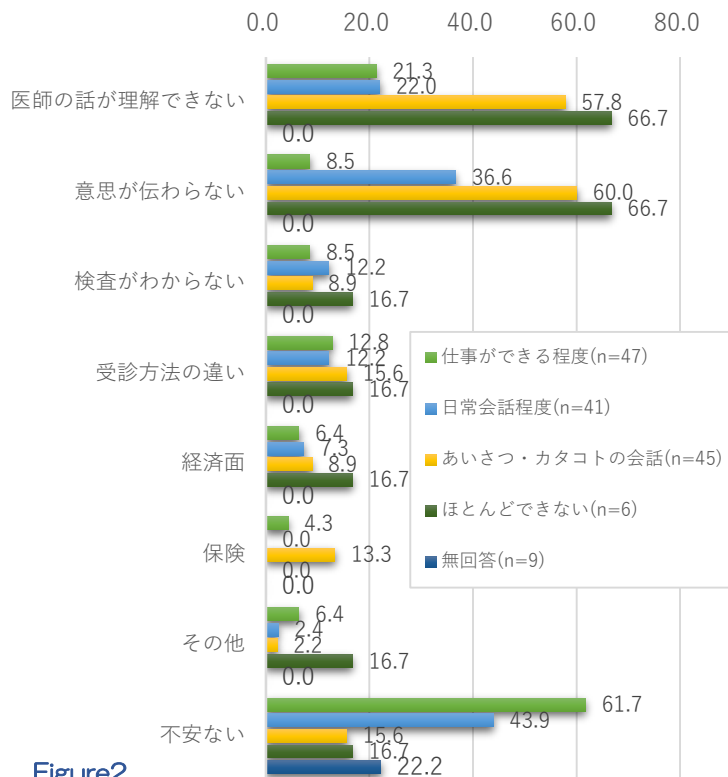


Figure 2. 日本語能力別医療受診時の不安

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 医療従事者と通訳ボラが協働できるしくみが必要。
2. コミュニケーションの不安があったとしても外国人住民が躊躇なく安心して受診できるよう、本制度の認知度を高めていく必要がある。
3. 医療従事者の視点での医療通訳のあり方についても検討する必要がある。